

## 植栽環境に適応した街路樹の樹形管理方法の確立

### 【研究概要】

都市における街路樹は、強剪定による景観機能の低下や樹勢衰退、街路樹低木の樹種の偏りといった問題が生じているため、大きくなりすぎない街路樹用中高木の樹種および剪定管理方法、ならびに新しい低木樹種を提案するとともに、3Dレーザースキャン技術を活用した優良剪定手法の可視化技術を開発する。大きくなりすぎない街路樹用中高木10樹種の定植3年目の生育を調査したところ、モチノキ「オウゴン」、マグノリア「ワダスメモリー」は特に生育が緩慢であった。それに対し、サクラ「天の川」やホンコンヤマボウシは無剪定では樹形が乱れやすかった。新しい街路樹用低木の強い刈込への耐性について調査したところ、11樹種中フイリヒメトベラを除く10樹種は耐性が強かった。3Dレーザースキャン技術については、枝の揺れが少ないなど条件が整った木であれば、剪定前後のデータを解析することで剪定した枝のみを示すことができ、PC上で3次元的に可視化することが可能である。